

# 精神保健福祉センター所報

令和4年度

秋田県子ども・女性・障害者相談センター  
精神保健福祉部

(旧 秋田県精神保健福祉センター)

# 目 次

## I. 概要

1. 設置目的	1
2. 沿革	1
3. 組織及び職員構成	2
4. 令和4年度事業体系	3

## II. 事業の実績

1. 教育研修事業	5
2. 技術指導及び技術援助事業	8
3. 精神保健福祉相談・診療事業	9
○精神保健福祉相談・診療	9
4. 特定相談指導事業(アルコール関連問題・思春期精神保健に関する相談指導等)	10
○親の会～にじの会	10
○ひきこもり等青年本人グループ	11
○S S Tグループ	12
○思春期問題研修会	13
5. 依存症支援体制整備事業	14
6. 心の健康づくり相談事業	17
○「こころの電話」相談	17
○新型コロナウイルス感染症こころのケア対策	18
○地域の複雑困難事例における出張事例検討会	18
7. ひきこもり相談支援センター	19
○電話相談	19
○面接相談	20
○訪問支援	21
○ひきこもり相談支援連絡協議会	22
○ひきこもり相談支援者研修会	23
○社会とのつながり支援(職親)事業	23
8. 協力組織への援助	24
9. 広報普及事業	25
10. 精神医療審査会事務	26
11. 自立支援医療(精神通院医療)及び精神障害者保健福祉手帳の判定事務	27

III. 調査研究事業	28
-------------	----

# I. 概 要

## 1. 設置目的

秋田県精神保健福祉センターは、精神保健及び精神障害者の福祉に関する総合的な技術センターとして知識の普及を図り、調査研究を行うとともに、保健所及び関係機関に対して技術指導、技術援助、複雑困難な事例相談に応じるなど、地域精神保健福祉活動の中核として県民の福祉の充実に資することを目的としている。

## 2. 沿革

昭和35年 8月 秋田県精神衛生相談所設置条例公布

昭和39年 4月 精神衛生相談所を県公衆衛生課に設置

県立中央病院にて相談業務実施

昭和46年 4月 県立中央病院が国立秋田大学附属病院に移管後、秋田保健所で相談業務実施

昭和54年 7月 秋田県精神衛生センターを設置、業務開始

昭和55年 6月 デイケア事業開始

昭和56年 6月 酒害相談事業開始

昭和60年 6月 心の健康づくり推進事業開始

昭和63年 7月 法改正により「秋田県精神保健センター」に改称

昭和64年 1月 特定相談指導事業開始（アルコール関連問題及び思春期精神保健に関する相談指導）

平成 2年 5月 「こころの電話」相談業務開始

平成 7年 7月 法改正により「秋田県精神保健福祉センター」に改称

平成 9年 4月 仙北郡協和町（現大仙市）に移転、デイケア事業廃止

平成10年 9月 思春期・青年期 親の会開始

平成11年 1月 薬物相談事業開始

平成14年 4月 精神医療審査会事務、通院医療費公費負担及び精神障害者保健福祉手帳の判定事務開始

平成15年 5月 思春期・青年期 当事者の会開始

平成16年 5月 うつ病家族教室・本人教室開始

平成17年 3月 住居表示変更（市町村合併のため）

うつ病家族教室・本人教室を終了し、家族教室は自助グループ化

平成19年 8月 あきたいのちのケアセンター業務開始

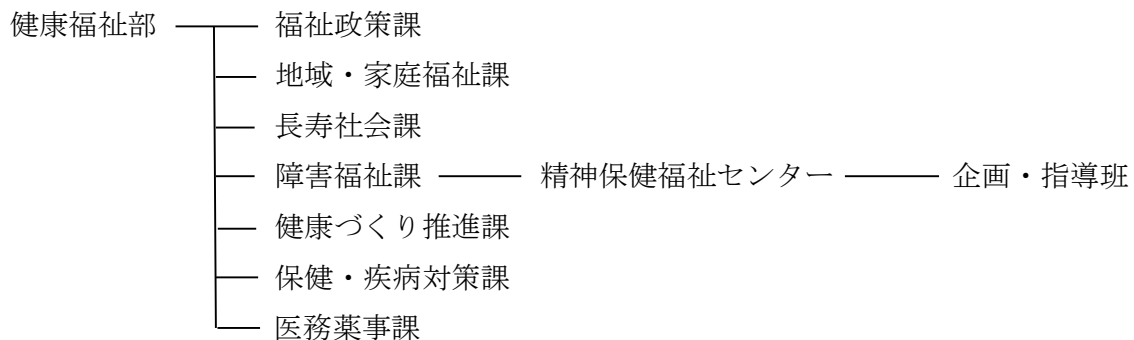
平成20年 4月 秋田市に移転

平成25年10月 ひきこもり相談支援センター業務開始

平成29年 4月 あきたいのちのケアセンター業務を秋田県地域自殺対策推進センターへ一部移管

### 3. 組織及び職員構成

#### (1) 組織



#### (2) 職員構成

(令和 4年 4月現在)

職 種 職員状況	医 師	保健師	心 理 判定員	事 務 員	運 転 技 師	非常勤 職 員	合 計
専 任	1	4	2	2		6	15
兼 任				4	1		5
計	1	4	2	6	1	6	20

#### 4. 令和4年度事業体系

教育研修	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 思春期問題研修会</li> <li>2 他の機関（企業、任意団体等含む）からの依頼に基づく講師派遣</li> </ol>
技術指導及び技術援助	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 保健所に対する技術援助</li> <li>2 医療、福祉、教育等各関係機関に対する技術援助</li> </ol>
精神保健福祉相談	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 来所相談</li> <li>2 電話相談</li> </ol>
特定相談	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 アルコール関連問題相談</li> <li>2 薬物関連問題相談</li> <li>3 思春期精神保健相談</li> </ol>
依存症対策 （依存症支援体制整備事業）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 広報啓発</li> <li>2 自助グループ等への育成支援</li> <li>3 地域の相談機関への技術支援</li> <li>4 地域における支援体制構築</li> <li>5 回復支援及び家族支援</li> </ol>
心の健康づくり	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 「こころの電話」相談</li> <li>2 知識の普及啓発</li> <li>3 新型コロナウイルス感染症こころのケア対策</li> <li>4 地域の複雑困難事例における出張事例検討会</li> </ol>
ひきこもり対策	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 知識の普及啓発</li> <li>2 関係団体との協力・連携（連絡協議会）</li> <li>3 ひきこもり相談支援センター（電話・面接相談、相談支援者研修等）</li> </ol>
協力組織の育成	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 関係団体への協力・支援</li> </ol>
広報普及	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 一般住民及び関係機関への啓発普及（講演、広報活動等）</li> <li>2 所報の作成</li> <li>3 視察・見学等の受入</li> </ol>
精神医療審査会事務	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 医療保護入院届、措置入院・医療保護入院の定期病状報告の審査</li> <li>2 退院請求・処遇改善請求の審査</li> </ol>

自立支援医療（精神  
通院医療）及び精神  
障害者保健福祉手帳  
の判定事務

- 1 自立支援医療費（精神通院医療）の支給認定に係る要否の判定
- 2 精神障害者保健福祉手帳の交付の適否及び障害等級の判定

調 査 研 究

- 1 精神保健及び精神障害者の福祉の増進に関する調査研究





## II. 事業の実績

## II. 事業の実績

### 1. 教育研修事業

#### 1. 実施状況

センター 主催	回数	1
	延人数	131

#### 2. センター主催研修

研修名 (対象者)	開催月日 (会場)	研修内容	参加人数
思春期問題研修会  (教育機関、 医療機関、 相談機関、 行政機関等)	令和4年11月29日 (web開催)	講演 「思春期におけるトラウマインフォームドケア」  講師 兵庫県こころのケアセンター 副センター長兼研究部長 亀岡 智美 氏	131名

### 3. 他機関主催研修（講演関係）

研 修 名	開 催 月 日 (会 場)	研 修 内 容	主 催
日本赤十字秋田看護大学特別講義	令和4年 4月27日 (web)	『公衆衛生看護管理の実際～健康危機管理～』 講師：主幹 高橋 香苗	日本赤十字秋田看護大学
令和4年度第1回 福祉総合相談研修	令和4年 7月 6日 (カレッジプラザ)	『ストレス解消法について』 講師：副主幹 小松 広美	福祉相談センター
精神保健福祉研修会	令和4年 8月 2日 (山本地域振興局福祉環境部)	『秋田県版アルコール依存症回復支援プログラムについて』 講師：主査 佐藤 玲子	山本地域振興局福祉環境部
横手市メンタルヘルス サポーター養成講座	令和4年 8月26日 (横手保健センター)	『うつ病の理解と対応』 講師：所長 清水 徹男	横 手 市
養 護 教 諭 研 修	令和4年 9月16日 (web)	『ねむりの大切さ』 講師：所長 清水 徹男	総合教育センター
北秋田地域振興局衛生委員会 健康講話	令和4年 9月20日 (web)	『ストレスと上手につきあう』 講師：所長 清水 徹男	北 秋 田 地 域 振 興 局
令和4年度新規採用（県・市町村） 職員研修後期研修①	令和4年 9月28日 (自治研修所)	『メンタルヘルスについて』 講師：所長 清水 徹男	自 治 研 修 所
令和4年度新規採用（県・市町村） 職員研修後期研修②	令和4年10月 5日 (自治研修所)	『メンタルヘルスについて』 講師：所長 清水 徹男	自 治 研 修 所
令和4年度新規採用（県・市町村） 職員研修後期研修③	令和4年10月12日 (自治研修所)	『メンタルヘルスについて』 講師：所長 清水 徹男	自 治 研 修 所
令和4年度新規採用（県・市町村） 職員研修後期研修④	令和4年10月17日 (自治研修所)	『メンタルヘルスについて』 講師：所長 清水 徹男	自 治 研 修 所
潟上市障害者相談員研修会	令和4年10月20日 (潟上市役所)	『ひきこもりについて ひきこもりの理解』 講師：ひきこもり相談支援センター コーディネーター	潟 上 市
令和4年度新規採用（県・市町村） 職員研修後期研修⑤	令和4年10月26日 (自治研修所)	『メンタルヘルスについて』 講師：所長 清水 徹男	自 治 研 修 所
「ひきこもりとその背景に ついて考える」研修会	令和4年11月 1日 (遊学舎)	『ひきこもりについて 秋田県ひきこもり相談支援センターの関わりから』 講師：ひきこもり相談支援センター コーディネーター	N P O 法 人 蜘蛛の糸
メンタルヘルスに関する 専門職研修	令和4年11月 4日 (能代市中央公民館)	『うつ病への理解とその対応について』 講師：次長 鈴木 稔	能 代 市
県庁出前講座	令和4年11月 5日 (秋田市北部市民サービスセンター)	『ひきこもりの理解と対応について』 講師：専門員 三浦 敦子	秋田ふれあいこまち会

研 修 名	開 催 月 日 (会 場)	研 修 内 容	主 催
ギャンブル等依存症対策と回復支援プログラム研修会	令和4年11月10日 (web)	『ギャンブル障害における回復支援プログラムについて』 講師：主査 佐藤 玲子	日本精神科看護協会
ひきこもり支援モデル事業支援者向け研修会	令和4年11月14日 (男鹿市役所)	『ひきこもり～原点に戻って考える～』 講師：所長 清水 徹男	障 害 福 祉 課
令和4年度「心はればれゲートキーパー養成講座」	令和4年11月25日 (秋田県生涯学習センター)	『心身の不調に身近な人が気づく』 講師：次長 鈴木 稔	秋田ふきのとう県民運動 実 行 委 員 会
アルコール関連問題地域連携会議	令和4年12月 6日 (大曲エンパイヤホテル)	『後回しにしていますか？支援者自身のケア』 講師：所長 清水 徹男	仙北地域振興局福祉環境部
由利地域心の健康づくり・自殺予防ネットワーク会議	令和4年12月13日 (由利地域振興局)	『コロナ禍に関連したこころの相談状況について』 講師：副主幹 小松 広美	由利地域振興局福祉環境部
ひきこもり支援者学習会	令和5年 1月31日 (平鹿地域振興局福祉環境部)	『ひきこもり支援の基本的な理解と家族支援の実際について』 講師：副主幹 小松 広美	平鹿地域振興局福祉環境部
雄湯郷ふれあいネットワーク研修会・自殺未遂者支援関係者研修会	令和5年 2月21日 (web)	『これからの自殺予防』 講師：所長 清水 徹男	雄勝地域振興局福祉環境部
秋田県公認心理師・臨床心理士協会福祉領域委員会研修会	令和5年 2月23日 (web)	『秋田県ひきこもり支援センターの紹介と連携等のあり方について』 講師：副主幹 小松 広美	秋 田 県 公 認 心 理 師 ・ 臨 床 心 理 士 協 会

## 2. 技術指導及び技術援助事業

地域における精神保健福祉活動をより効果的に推進するため、保健所及び関係機関に対して、研修会の開催、事例相談、社会復帰相談指導事業、会議等へ技術指導、技術援助を行っている。専門的立場から行うコンサルテーションが中心となっている。

関係機関別援助等の状況

(単位：件)

	保健所	市町村	福祉機関	医療機関	介護老人 保健施設	社会復帰 施設	社会福祉 施設	その他 機関	計
老人精神 保健	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会復帰	30	22	0	104	0	12	4	137	309
アルコール	10	7	0	14	0	2	0	97	130
薬物	0	0	0	0	0	0	0	2	2
ギャンブル	2	0	0	1	0	1	0	4	8
ゲーム	0	0	0	0	0	0	0	5	5
思春期	0	0	0	0		0	0	0	0
心の健康 づく	1	0	0	0	0	0	0	3	4
ひきこもり	27	17	0	0	0	11	19	29	103
自殺関連	0	6	0	9	0	0	0	54	69
犯罪被害	0	20	0	0	0	0	0	37	57
災害	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	4	0	0	1	0	0	0	15	20
計	74	72	0	129	0	26	23	383	707

※その他機関 = 教育機関、司法機関、報道機関等

### 3. 精神保健福祉相談・診療事業

#### ○精神保健福祉相談・診療

##### (1) 性別

性別	実 数		延 件 数
	年度内実件数	繰越件数	
男	32	4	114
女	11	2	63
合 計	43	6	177

##### (2) 年齢区分別

年齢 件数	0～9	10～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～	不詳	合計
実件数	0	2	9	14	6	10	6	2	0	49
延件数	0	10	23	69	30	33	6	6	0	177

##### (3) 相談内容別

相談内容	計	男	女
1. 老人福祉相談	0	0	0
2. 社会復帰	1	1	0
3. アルコール	31	30	1
4. 薬物関連	22	1	21
5. ギャンブル	62	60	2
6. ゲーム	14	9	5
7. 思春期	0	0	0
8. 心の健康づくり	16	3	13
9. うつ・うつ状態	1	0	1
10. 摂食障害	0	0	0
11. てんかん	0	0	0
12. その他	30	10	20
合 計	177	114	63

##### (4) 対処状況別

処遇 件数	指導助言	医学相談	心理療法	他機関紹介	心理検査	その他	合計
延件数	60	0	114	1	0	2	177

## 4. 特定相談指導事業

### ○親の会（にじの会）

#### 1. 目的

子どもがひきこもりの状態になると、最も身近な存在である親は、不安やストレス、焦りなどを感じやすく、それによって本人へのサポートが十分にできなくなる場合がある。

そこで、同じ悩みを抱えた親同士が自由な雰囲気の中で話し合い、悩みを相談し合える交流の場を提供し、本人に対する理解を深めることや親自身の心の安定を図ることを目的とする。

#### 2. 対象

18歳以上のひきこもり状態にある方のご家族等

#### 3. 開催

原則として毎月第4水曜日

#### 4. 時間

午後2時～3時30分

#### 5. 場所

カレッジプラザ（明德館ビル2階）

#### 6. 内容

ひきこもりに関する学習会、グループワーク、親同士の話し合い

#### 7. 実施状況

実施回数：11回 参加者：18名

参加者延べ数：96名（1回あたり8.7名）

回数	開催月日	会場	実施内容	参加者数
1	R 4. 5. 24 (火)	カレッジプラザ	近況報告、フリートーク	11
2	R 4. 6. 22 (水)	カレッジプラザ	秋田市福祉総務課アウトリーチ支援員との情報交換	12
3	R 4. 7. 27 (水)	カレッジプラザ	コロナ禍のメンタルヘルスについて、Webミーティング体験	10
4	R 4. 8. 23 (火)	カレッジプラザ	地域の社会資源について	6
5	R 4. 9. 28 (水)	カレッジプラザ	リラクゼーション法を身につけよう	8
6	R 4. 10. 26 (水)	カレッジプラザ	当事者の体験談発表	12
7	R 4. 11. 22 (火)	カレッジプラザ	ひきこもりと精神障害	11
8	R 4. 12. 21 (水)	カレッジプラザ	家族の体験発表※ひきこもり家族学習会と合同開催	7
9	R 5. 1. 25 (水)	カレッジプラザ	不安との向き合い方	3
10	R 5. 2. 22 (水)	カレッジプラザ	近況報告、フリートーク	8
11	R 5. 3. 22 (水)	カレッジプラザ	近況報告、フリートーク	8

※4月は新型コロナウイルス感染症対策のため中止とした。

## ○ひきこもり等青年本人グループ（青年グループ）

### 1. 目的

様々な要因の結果として社会的参加を回避し、概ね家庭にとどまり続けている「ひきこもり状態」の当事者に対し、安心して過ごせる居場所を提供する。そこで、同世代の仲間と出会い、活動体験や、集団での自己表現等を通してひきこもり状態からの回復を図ることを目的とする。

### 2. 対象

ひきこもり状態の18歳～39歳位の当事者で、主催者が参加可能と認めた者  
※統合失調症、うつ病等の精神病圏の方は除く

### 3. 開催

原則として毎月第2水曜日

### 4. 時間

午後2時～4時

### 5. 場所

カレッジプラザ（明德館ビル2階）等

### 6. 内容

室内ゲーム、創作活動、料理、スポーツ、戸外学習、施設見学、自主活動、個人面談等

### 7. 実施状況

実施回数：11回 参加者：6名

延べ参加者数：40名（1回あたり3.6名）

回数	開催月日	会場	実施内容	参加者数
1	R 4. 4. 13 (水)	カレッジプラザ	今年度の目標、ボードゲーム	3
2	R 4. 5. 11 (水)	千秋公園	千秋公園散策	4
3	R 4. 6. 8 (水)	カレッジプラザ	コラージュ	5
4	R 4. 7. 13 (水)	県立博物館	県立博物館見学	2
5	R 4. 9. 13 (火)	県立図書館	図書館で本を探そう	2
6	R 4. 10. 12 (水)	県立美術館	県立美術館見学	5
7	R 4. 11. 9 (水)	カレッジプラザ	紙粘土創作	5
8	R 4. 12. 14 (水)	にぎわい交流館AU	楽しい音楽会	4
9	R 5. 1. 11 (水)	カレッジプラザ	書き初め	2
10	R 5. 2. 8 (水)	カレッジプラザ	壁新聞づくり①	4
11	R 5. 3. 8 (水)	カレッジプラザ	壁新聞づくり②	4

※8月は大雨のため中止とした。



## OSSTグループ

### 1. 目的

ひきこもり状態からの回復過程で、同世代の仲間と出会い集団での活動に慣れてきても一歩社会にでることに困難を感じている方、あるいは、それまでの学校生活や就労の場面で人間関係において挫折体験があったり困難を抱えている方に対して、自己理解を深めたり対人スキルを習得することで、ひきこもり状態からの回復を図ることを目的とする。

### 2. 対象

当センターでの個別面接や青年グループに参加している方の中で、次のステップに進むために対人スキルの習得が必要と思われる方

※担当者から参加勧奨して、本人が希望した場合。見学参加からでも可能。

### 3. 開催

原則として毎月第4火曜日

### 4. 時間

午後2時～3時30分

### 5. 場所

秋田県精神保健福祉センター（プレイルーム他）

### 6. 内容

SST、アサーション等

### 7. 実施状況

実施回数：10回 参加者：7名

延べ参加者数：37名（1回あたり3.7名）

回数	開催月日		会場	実施内容	参加者数
1	R 4. 4. 26	(火)	プレイルーム	上手に断る	3
2	R 4. 5. 24	(火)	プレイルーム	上手に頼む	4
3	R 4. 6. 28	(火)	プレイルーム	ストレスについて	5
4	R 4. 7. 26	(火)	プレイルーム	ストレスコーピング	3
5	R 4. 9. 27	(火)	プレイルーム	非難や苦情への対応	5
6	R 4. 10. 26	(水)	カレッジプラザ	当事者の体験発表	3
7	R 4. 11. 21	(月)	プレイルーム	感情のコントロール（不安の感情）	2
8	R 4. 12. 21	(水)	カレッジプラザ	家族の体験発表を聴く ※にじの会（ひきこもり家族学習会）と合同開催	3
9	R 5. 1. 24	(火)	プレイルーム	嘘の社会的機能	5
10	R 5. 3. 28	(火)	プレイルーム	ピア・サポート	4

## ○思春期問題研修会

### 1. 目 的

子どもの困った行動の背景に、実はトラウマが影響しているかもしれないとしたら、我々の対応はどのように変わるだろうか。トラウマの影響は、見過ごされやすく、誤解されやすい。トラウマインフォームドケア (TIC) は、対象者の言動をトラウマのメガネで見ることから始めるアプローチである。子どものさまざまな言動をトラウマのメガネで見ると考えることは、生きづらさを抱える子どもを理解し、支援の方向性を明確にするのに役立つと考える。

そこで、まずはTICの理念と基本的な考え方を理解した上で、特に複雑困難な思春期におけるTICについて理解を深めることを目的とする。

### 2. 対 象

保健所、福祉事務所、相談機関等職員、学校教職員、医療機関職員、市町村職員、児童福祉施設職員、支援機関職員等

### 3. 講 演

演題：「思春期におけるトラウマインフォームドケア」

兵庫県こころのケアセンター 副センター長兼研究部長

児童青年期精神科医 亀 岡 智 美 氏

令和4年11月29日 ( web開催 参加者：131名 )

## 5. 依存症支援体制整備事業

相談支援機関の人材育成と相談技術の向上、及び関係機関との連携の強化を目的とする。

### (1) 広報啓発

#### ① 県民向け啓発キャンペーンの実施

- 1) 5月のギャンブル等依存症関連問題啓発週間に併せて実施  
当センターHPへの掲載・関連機関リンク
- 2) 11月のアルコール関連問題啓発週間及び児童虐待・DV防止啓発キャンペーンに併せて実施  
啓発用カード・ポケットティッシュ・リーフレット配布（各1,000部）  
実施状況：令和4年11月26日（土） イオンスタイル茨島他（市内3ヶ所）

#### ② 運転免許証取消処分者講習（飲酒）における啓発

秋田県警察本部交通部運転免許センター及び取消処分者講習（飲酒）実施会場へ、アルコール依存症回復支援プログラム等に関するリーフレット等を配布依頼  
自動車学校11校へ各300部配布

### (2) 自助グループ等への育成支援

#### ① 活動への助言指導（ミーティングへの参加等）

地域精神保健福祉活動推進を図るための協力組織の育成、援助事業  
保護観察所家族会 2回

#### ② 啓発活動の協働

※コロナ禍のため街頭キャンペーンへの自助グループからの協働実施は見送り

#### ③ その他

- 1) SAT-GグループミーティングにGAメンバーが出席し模擬ミーティングを開催 1回
- 2) 依存症問題を考える家族セミナーに自助グループのメンバーが出席し、会の活動紹介等を実施 3回

### (3) 地域の相談機関への技術支援

#### ① 秋田県版依存症支援者向け支援ツール活用ワークショップ（ガイドブック及びASAT-A）

（目的） 「アルコール依存症 相談支援機関のためのガイドブック(案)」について紹介するとともに、秋田県版アルコール依存症回復支援プログラム（ASAT-A）についてワークショップを実施し普及させることで、県内における依存症相談に関する相談技術の更なる向上と支援の標準化を図る。

（参加者） 保健所、市町村、精神科・心療内科を有する病院・診療所、相談関係機関等  
（日時及び内容等）

##### 1) 令和4年8月3日 web開催 16機関 19名参加

- ・相談機関向け支援ガイドブックの説明  
講師：精神保健福祉センター職員
- ・ASAT-Aについて講演、実技（デモンストレーションとロールプレイ）  
講師：作成委員（杉山病院 精神保健福祉士 佐藤光幸 氏）

##### 2) 令和4年9月21日 対面開催 15機関 20名参加

- ・講演「アルコール依存症の基礎知識」  
講師：精神保健福祉センター 所長
- ・ASAT-Aについて講演、実技（デモンストレーションとロールプレイ）  
講師：作成委員（杉山病院 精神保健福祉士 佐藤光幸 氏）  
精神保健福祉センター職員
- ・ASAT-Aを活用した事例発表  
発表者：大館保健所、湯沢保健所職員

#### ② 地域の複雑困難事例における出張事例検討会

（目的） 相談技術の向上及び関係機関連携を促進する。

（対象） 保健所、市町村、地域包括支援センター、社会福祉協議会、社会復帰施設、医療機関、警察、消防等

（開催日及び内容） 希望する各保健所

※事例検討、情報交換等

- ・秋田中央保健所（web開催）令和4年7月12日 出席者 12名 事例検討 1例

※ICT活用により一部遠隔参加

#### (4) 地域における支援体制構築

##### ① 依存症支援体制連携会議

(目的) 秋田県の依存症支援に関わる人材育成の基盤づくりと各関係機関の連携強化を図るため、依存症に関する支援体制について協議及び意見交換等を行う依存症体制連携会議を設置する。

(参加者) 保健所等相談機関、精神科医、有識者、自助グループ等民間団体代表等 32名

(場所) 秋田地方総合庁舎会議室 (令和5年3月22日)

(内容) ・依存症支援体制整備事業の実施状況  
・各機関における支援、連携状況や課題等

#### (5) 回復支援及び家族支援

##### ① 依存症問題を考える家族セミナー

(目的) 依存症は家族を巻き込む病気とも言われており、本人だけでなく家族も深く傷つき苦しんでいる。本人が依存症から回復することが必要なように、家族にとっても回復が必要である。

そこで、家族が依存症について正しい知識を得たり、同じ悩みを抱えた家族同士が気持ちを分かち合うことのできる場を提供し、家族の負担軽減や回復を図る。

(対象) 依存症問題を抱える家族等、保健所職員、依存症専門医療機関職員

(開催方法) 家族：会場 (カレッジプラザ) 参加 支援者：Web参加

第1回【アルコール依存症】：令和4年7月26日 17名 (会場3名、web14名)

- ・講話「アルコール依存症治療について～当院での取組み～」  
講師：秋田回生会病院 精神保健福祉士 石塚 優吾 氏
- ・自助グループとの出会い  
講師：NPO法人コミファ メンバー

第2回【ギャンブル依存症】：令和4年9月14日 22名 (会場3名、web19名)

- ・講話「ギャンブル依存症における債務整理について」  
講師：さが司法書士事務所 所長 嗟峨 直司 氏
- ・自助グループとの出会い  
講師：ギヤマノンあきた メンバー

第3回【薬物依存症】：令和4年11月25日 23名 (会場2名、web21名)

- ・講話「秋田至仁会における薬物依存症への支援について」  
講師：秋田至仁会 薬物専門職員 精神保健福祉士 米内 満政 氏
- ・自助グループとの出会い  
講師：秋田ダルク メンバー

## 6. 心の健康づくり相談事業

### ○「こころの電話」相談

#### (1) 電話をかけてきた人（総件数）

続柄 件数	本人		親 族							友人 上司 同僚	その他	不詳	合計	
	男	女	父	母	夫	妻	子	同胞	その他					
延件数	2,386	1,688	5	10	1	1	4	5	9	1	1	20	4,131	
	4,074		35											

#### (2) 当事者（本人）の性別件数

性別	実 数		延 件 数
	年度内実件数	繰越件数	
男	139	42	2,407
女	197	97	1,718
不詳	5	0	6
合計	341	139	4,131

#### (3) 当事者（本人）の年齢区分別件数

年齢 件数	0～9	10～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～	不詳	合計
延件数	0	85	411	180	1,059	1,072	1,125	110	89	4,131

#### (4) 相談内容別件数

相談内容	総数	男	女
1. 老人福祉相談	5	2	3
2. 社会復帰	0	0	0
3. アルコール	4	1	3
4. 薬物関連	1	1	0
5. ギャンブル	25	1	24
6. ゲーム	2	0	2
7. 思春期	14	13	1
8. 心の健康づくり	964	454	510
9. うつ・うつ状態	72	27	45
10. 摂食障害	5	0	5
11. てんかん	1	0	1
12. その他	3,038	1,908	1,124
合計	4,131	2,407	1,718

(※)総数には性別不詳の件数を含んでいる。

#### (5) 対処状況

処遇別 件数	指導助言	来所勧奨	受診勧奨	傾聴	他機関紹介	その他	合計
延件数	445	0	18	3,528	57	83	4,131

## ○新型コロナウイルス感染症こころのケア対策

### ①こころの電話相談（県民）（再掲） 延 73件

#### 性別内訳（延）（再掲）

	件数
男	23
女	50
不明	0
計	73

#### 年齢別内訳（延）（再掲）

年齢 件数	10代以下	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～	不詳	合計
人数	1	0	11	29	17	14	0	0	1	73

### ②新型コロナウイルス感染症こころのケアに係る技術支援

- ・啓発資料の作成及び提供

感染者・家族等濃厚接触者、宿泊療養施設、保健所向けリーフレット等

## ○地域の複雑困難事例における出張事例検討会

### 1. 目的

依存症やひきこもりに限らず精神保健福祉に関する相談の中で、各地域で対応に困っている複雑困難事例を取り上げて事例検討をすることで、関係機関の連携を深め、相談対応技術の向上を図る。

### 2. 対象

依存症やひきこもり等の精神保健福祉に関する相談を行っている方  
(保健所、市町村、社会福祉協議会、福祉事務所、その他相談機関等)

### 3. 内容

事例検討

### 4. 実施状況

- 第1回：令和4年6月24日 大館保健所 参加者11名（Web開催）
- 第2回：令和4年7月8日 横手保健所 参加者21名（web開催）
- 第3回：令和4年7月12日 秋田中央保健所 参加者12名（ハイブリット開催）
- 第4回：令和4年8月2日 湯沢保健所 参加者12名
- 第5回：令和5年3月23日 横手保健所 参加者6名（Web開催）

## 7. ひきこもり相談支援センター

### ○電話相談

#### (1) 性別相談件数

性別	実 数		延 件 数
	新規件数	繰越件数	
男	59	13	117
女	32	6	56
合 計	91	19	173

#### (2) 年齢区分別

年齢 件数	0～9	10～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～	不詳	合計
実件数	0	8	28	31	22	4	2	1	14	110
延件数	0	12	50	56	33	5	2	1	14	173

#### (3) 相談内容別

相談内容	総数	男	女
1. 老人福祉相談	0	0	0
2. 社会復帰	0	0	0
3. アルコール	0	0	0
4. 薬物	0	0	0
5. ギャンブル	0	0	0
6. 思春期	0	0	0
7. 心の健康づくり	0	0	0
8. うつ・うつ状態	0	0	0
9. 摂食障害	0	0	0
10. てんかん	0	0	0
11. その他	173	117	56
合 計	173	117	56

#### (4) 相談理由別（複数チェックあり）

相 談 件 数	延件数
1. ひきこもり	170
2. 不登校	3
3. 当事者(本人)への対応に関する事	53
4. 対人関係に関する事	4
5. 家庭内・家族間の問題	17
6. 就労に関する事	20
7. 障害・病気に関する事	7
8. 経済的な問題	5
9. 青年G・にじの会に関する事	2
10. センター業務に関する問い合わせ	2
11. 来所相談希望	30
12. 近況報告	39
13. その他	20
合 計	372

#### (5) 相談経路別

相談経路	件数	広報内訳	
		内 訳	件数
1. 広報	51	a. インターネット	46
2. 医療機関	2	b. 広報紙	1
3. 保健所	3	c. 新聞	0
4. 市町村	2	d. テレビ	0
5. その他	11	e. 電話帳	1
6. 不明	23	f. パンフ類	3
7. 直接	73	g. 本・雑誌	0
8. 巡回相談	0	h. ラジオ	0
9. 架電	8		
合 計	173		

#### (6) 保健所管内別件数（当事者の居住地）

保健所	件数
1. 大館保健所管内	0
2. 北秋田保健所管内	5
3. 能代保健所管内	6
4. 秋田中央保健所管内	15
5. 由利本荘保健所管内	15
6. 大仙保健所管内	12
7. 横手保健所管内	5
8. 湯沢保健所管内	4
9. 秋田市保健所管内	96
10. 県外	3
11. 不明	12
合 計	173

#### (7) 対処状況

処遇別 件数	指導助言	面接勧奨/予約	受診勧奨	傾聴	他機関紹介	その他	合計
延件数	98	49	2	9	4	11	173



## ○面接相談

### (1) 性別相談件数

性別	実 数		延 件 数
	新規件数	繰越件数	
男	2	29	301
女	0	9	48
合 計	2	38	349

### (2) 年齢区分別

年齢 件数	0～9	10～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～	不詳	合計
実件数	0	2	16	15	7	0	0	0	0	40
延件数	0	20	140	145	43	1	0	0	0	349

### (3) 相談内容別

相談内容	総数	男	女
1. 老人福祉相談	0	0	0
2. 社会復帰	0	0	0
3. アルコール	0	0	0
4. 薬物	0	0	0
5. ギャンブル	0	0	0
6. 思春期	0	0	0
7. 心の健康づくり	0	0	0
8. うつ・うつ状態	0	0	0
9. 摂食障害	0	0	0
10. てんかん	0	0	0
11. その他	349	301	48
合 計	349	301	48

### (4) 相談理由別（複数チェックあり）

相 談 件 数	延件数
1. ひきこもり	349
2. 不登校	1
3. 当事者(本人)への対応に関する事	30
4. 対人関係に関する事	5
5. 家庭内・家族間の問題	8
6. 就労に関する事	21
7. 障害・病気に関する事	3
8. 経済的な問題	4
9. 青年G・にじの会に関する事	1
10. センター業務に関する問い合わせ	1
11. 来所相談希望	0
12. 近況報告	296
13. その他	2
合 計	721

### (5) 相談経路別

相談経路	件数	広報内訳	
		内 訳	件数
1. 広報	0	a. インターネット	0
2. 医療機関	0	b. 広報紙	0
3. 保健所	0	c. 新聞	0
4. 市町村	1	d. テレビ	0
5. その他	0	e. 電話帳	0
6. 不明	0	f. パンフ類	0
7. 直接 (うち、架電)	348 (0)	g. 本・雑誌	0
8. 巡回相談	0	h. ラジオ	0
合 計	349		

### (6) 保健所管内別件数（当事者の居住地）

保健所	件数
1. 大館保健所管内	6
2. 北秋田保健所管内	1
3. 能代保健所管内	22
4. 秋田中央保健所管内	39
5. 由利本荘保健所管内	4
6. 大仙保健所管内	19
7. 横手保健所管内	10
8. 湯沢保健所管内	6
9. 秋田市保健所管内	241
10. 県外	0
11. 不明	1
合 計	349

### (7) 対処状況

処遇別 件数	指導助言	面接勧奨/予約	受診勧奨	傾聴	他機関紹介	その他	合計
延件数	346	1	0	0	2	0	349

## ○訪問支援

### (1) 性別相談件数

性別	実 数		延 件 数
	新規件数	繰越件数	
男	0	2	7
女	0	1	1
合 計	0	3	8

### (2) 年齢区分別

年齢 件数	0～9	10～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～	不詳	合計
実件数	0	0	1	1	1	0	0	0	0	3
延件数	0	0	2	5	1	0	0	0	0	8

### (3) 相談内容別

相談内容	総数	男	女
1. 老人福祉相談	0	0	0
2. 社会復帰	0	0	0
3. アルコール	0	0	0
4. 薬物	0	0	0
5. ギャンブル	0	0	0
6. 思春期	0	0	0
7. 心の健康づくり	0	0	0
8. うつ・うつ状態	0	0	0
9. 摂食障害	0	0	0
10. てんかん	0	0	0
11. その他	8	7	1
合 計	8	7	1

### (4) 相談理由別（複数チェックあり）

相 談 件 数	延件数
1. ひきこもり	8
2. 不登校	0
3. 当事者(本人)への対応に関する事	0
4. 対人関係に関する事	0
5. 家庭内・家族間の問題	0
6. 就労に関する事	0
7. 障害・病気に関する事	0
8. 経済的な問題	0
9. 青年G・にじの会に関する事	0
10. センター業務に関する問い合わせ	0
11. 来所相談希望	0
12. 近況報告	0
13. その他	0
合 計	8

### (5) 支援内容

相談経路	件数
1. 家庭訪問	0
2. 同行支援	1
3. 職親	7
4. 巡回相談	0
合 計	8

### (6) 保健所管内別件数（当事者の居住地）

保健所	件数
1. 大館保健所管内	0
2. 北秋田保健所管内	0
3. 能代保健所管内	0
4. 秋田中央保健所管内	0
5. 由利本荘保健所管内	0
6. 大仙保健所管内	0
7. 横手保健所管内	0
8. 湯沢保健所管内	0
9. 秋田市保健所管内	8
10. 県外	0
11. 不明	0
合 計	8

## ○ひきこもり相談支援連絡協議会

### 1. 目的

ひきこもりに対する支援業務を行う機関の担当者が一堂に会し、支援のあり方について情報交換や必要な知識を深め、各機関相互の連携強化や支援技術の向上によりひきこもり支援の充実を図る。

### 2. 構成機関

医療機関、社会福祉協議会、職親協力事業所、教育機関、市町村、保健所、地域包括支援センター他支援機関

### 3. 内容

各地区共通 講話：「ひきこもりと“にも包括”」  
秋田県精神保健福祉センター所長  
活動紹介：「多様な相談」と「つながる支援」  
グループワーク

#### 【活動紹介発表者】

- ① 県北地区 社会福祉法人鹿角市社会福祉協議会  
地域福祉課 地域福祉総合支援係 高橋 幸子 氏
- ② 県央地区 秋田市福祉総務課 生活支援担当  
アウトリーチ支援員 石黒 優 氏
- ③ 県南地区 社会福祉法人湯沢市社会福祉協議会  
主査 後藤 久司 氏

### 4. 開催月日（会場及び参加者数）

- ・ 県北地区 令和4年 8月29日 （北秋田地域振興局大会議室 参加者：17名）
- ・ 県央地区 令和4年11月 2日 （カレッジプラザ 参加者：16名）
- ・ 県南地区 令和4年 9月12日 （平鹿地域振興局福祉環境部 参加者：22名）

## ○ひきこもり相談支援者研修会

### 1. 目的

ひきこもりは、その要因や状態が多様であり、近年はひきこもりの長期化や高齢化といったことも深刻な問題となっている。このような状態にある本人や家族は生きづらさや社会からの孤立感を抱えており、その支援においてはさまざまな領域からのきめ細かな支援が必要とされる。

そこで、今回は本人や家族を孤立させないために支援者としてなにができるかを考え、ひきこもり相談対応や支援活動における一助となることを目的として本研修会を開催する。

### 2. 対象

保健所、福祉事務所、市町村、職親、相談機関・支援機関、教育機関、医療機関、司法・警察関係、ボランティア団体関係等

### 3. 内容

講演

### 4. 実施状況

演題：「ひきこもりの理解と支援のあり方」～本人も家族も孤立しないために～  
白梅学園大学 子ども学部 教授 長谷川 俊雄 氏

### 5. 開催月日（会場及び参加者数）

令和5年3月3日 （web開催） 57回線 参加者：94名

## ○社会とのつながり支援（職親）事業

### 1. 目的

協力事業所での社会参加の機会を提供し、社会的適応を支援する。

### 2. 事業所数

2カ所

### 3. 参加者

2名

### 4. 内容

事業所及び参加者への面接相談支援（毎月）

## 8. 協力組織への援助

地域精神保健福祉の向上を図るためには、地域住民による組織的活動が必要である。  
センターは、主に次の団体に対して、組織の育成強化に努め、地域精神保健福祉活動に対する住民の協力参加や各種社会資源を活用しながら実施している。

### (1) 秋田県精神保健福祉協会

開催月日	事業内容	場所	従事職員数
R4. 4. 22	理事会	秋田県社会福祉会館	2
R4. 7. 22	総会・研修会	秋田キャッスルホテル	2

### (2) 秋田県障害者スポーツ協会

開催月日	事業内容	場所	従事職員数
R4. 11. 19	初級障害者スポーツ指導員養成講習会	秋田県心身障害者総合福祉センター	1

### (3) 秋田県精神障害者スポーツ推進協議会

開催月日	事業内容	場所	従事職員数
R4. 7. 4	理事・役員会	秋田県社会福祉会館	1

### (4) 保護観察所家族会

開催月日	事業内容	場所	従事職員数
R4. 7. 13	依存症問題を抱える家族会	秋田保護観察所	1
R4. 10. 19	依存症問題を抱える家族会	秋田保護観察所	1

### (5) ギャマノンあきた

開催月日	事業内容	場所	従事職員数
R4. 5. 28	グループミーティング	秋田市将軍野コミュニティセンター	1

## 9. 広報普及事業

一般住民及び関係機関に対する精神保健福祉の普及啓発を図るため、講演・研修会、広報活動、出版物の作成を行っている。  
実施内容は、次のとおりである。

### (1) 講演・研修会等

- ①センター主催分       7回       326名（WEB参加含む）
- ②他機関主催分       22回

### (2) 広報活動

種 別	対 象 機 関	内 容	実施時期
取材・広報等	精神保健福祉センター	県民向け依存症啓発キャンペーン	11月
	ひきこもり相談支援センター	センターの相談窓口紹介 (県政テレビ広報番組)	3月

### (3) 印刷物作成等

種 別	題 名	発行部数
所 報	精神保健福祉センター所報（令和3年度）	100部
手 引 き	参加者のエンパワメントにつながる事例検討会の手引き	30部

## 10. 精神医療審査会事務

精神医療審査会は、公平かつ専門的な見地から、医療保護入院者の入院届並びに措置入院者及び医療保護入院者の定期病状報告の審査と、精神病院に入院中の者、又はその家族等からの退院・処遇改善の請求の審査を行う機関として設置されている。精神医療審査会の独立性を保証し、専門性を持った職員がその事務を取り扱うことが望ましいため、平成14年度から精神保健福祉センターが事務局となり、その事務を行っている。

(1) 開催日 毎月第2・第4木曜日

(2) 委員構成 25名

合議体：医療委員2～3名、法律家委員1名、有識者委員1～2名の5名による班編成で審査を実施。合議体は5班体制で組織。

全体会：各合議体による審査会活動の実績を報告。懸案事項の検討、協議を行う。

(3) 開催回数

合議体：24回

全体会：1回

(4) 審査件数

		医療保護 入院届	医療保護 入院定期 病状報告	措置入院 定期病状 報告	退院請求	処遇改善 請求	計
審査 件数	報告・請求等 受理件数	2,129	1,356	10	42	8	3,545
	前年度末の 調査・継続審査 件数						0
審査 結果	引き続き現在の 入院形態での 入院が必要	2,129	1,356	9	35		3,529
	他の入院形態へ の移行が適当						0
	入院継続の必要 は認められない						0
	現在の処遇は 適当と認める					7	7
	現在の処遇に 改善が必要						0
計		2,129	1,356	9	35	7	3,536
年度末時点の 調査・継続審査件数		0	0	1	2	0	3

※退院請求には請求受理後の請求取り下げ及び要件消失5件を含んでいる。また、処遇改善請求には請求受理後の請求取り下げ1件を含んでいる。

## 1.1. 自立支援医療（精神通院医療）及び精神障害者保健福祉手帳の判定事務

自立支援医療（精神通院医療）制度は在宅精神障害者の医療の確保を容易にするため、精神障害者保健福祉手帳は手帳の交付を受けた者に対して各方面の協力を得て各種支援策を講じやすくし、精神障害者の自立と社会参加の促進を図ることを目的としている。

手帳の申請は、年金証書の写しによるもの（地域の各保健所へ申請）と診断書によるものの2種類があり、診断書による判定は平成14年度から精神保健福祉センターが行っている。

- (1) 判定委員会開催日 原則として毎月第1、第3木曜日
- (2) 委員構成 5名（精神保健福祉センター所長含む）
- (3) 開催回数 24回
- (4) 判定件数

### ①自立支援医療費（精神通院医療）判定件数

承認	7,877
不承認	8
計	7,885

### ②精神障害者精神保健福祉手帳判定件数

該当	2,872
非該当	32
計	2,904

### ③精神障害者精神保健福祉手帳の等級別判定結果

等級	保健所									
	大館	北秋田	能代	秋田中央	由利本荘	大仙	横手	湯沢	秋田市	計
1級	68	34	112	76	54	89	57	46	354	890
2級	114	46	118	98	118	159	82	90	554	1,379
3級	75	19	31	45	50	73	30	24	256	603
非該当	4	2	1	1	1	4	4	1	14	32
計	261	101	262	220	223	325	173	161	1,178	2,904



### Ⅲ. 調査研究事業

# 精神保健福祉センターにおける事例検討会を用いた保健所支援の一考察

秋田県精神保健福祉センター

○小松広美 三浦敦子 猿橋留美子 佐藤玲子  
高橋香苗 鈴木 稔 清水徹男

## I 目的

近年、依存症やひきこもりをはじめとする複雑困難事例において、多機関での包括的支援（横の連携）や重層的支援（縦の連携）が課題となってきた。精神保健福祉センター（以下、「当センター」とする）では、令和元年度から多職種チーム（精神科医、保健師、心理職）が地域精神保健活動の拠点である保健所に出張した形で事例検討会（以下、「事例検討会」とする）を実施し、関係機関の連携を深めたり相談対応技術の向上を図る一助となるよう努めてきた。

今回、当センターが実施した事例検討会に参加経験のある県保健師を対象に、事例検討会についての意識調査を実施し、その成果と課題を明らかにすることを目的とした。

## II 方法

調査対象は令和元年度～4年度に当センターで開催した事例検討会に参加経験のある県保健師 34 名。調査期間は令和 4 年 12 月 15 日～12 月 26 日。電子データで調査票を送付し、回答は全庁共有の指定フォルダに保存により、個人ができるだけ特定されない形で集計を行った。

調査内容は、「保健所での精神保健担当年数」、「事例検討会参加時の保健所以外の関係機関の参加者の有無」及び「事例検討会に参加することで得られた成果」と「今後、事例検討会に関して当センターに望む支援」等について意識調査を実施した。

## III 結果

配布数 34、回答数 21、回収率 62%

### 1. 保健所での精神保健担当での経験年数（表 1）

対象者が勤務する保健所での精神保健担当の経験年数平均は 6 年であった。1～3 年が 7 名（33%）、4～6 年が 6 名（29%）、7 年以上が 8 名（38%）であった。

### 2. 保健所以外の機関の参加の有無（表 2）

事例検討会に保健所以外の機関の参加が「あった」と回答した方が 18 名（85%）で多くを占めていた。また、アンケートにはないが、事例検討会の開催は 21 回で、このうち 15 回が現地開催、6 回が WEB 開催であった。

### 3. 事例検討会に参加することで得られた成果（図 1）

- (1) 事例に対する理解が深まった  
「とてもそう思う」が9名(43%)、「そう思う」が12名(57%)と対象者全員が肯定的に回答をしていた。
  - (2) エンパワメントされた  
「とてもそう思う」が11名(52%)、「そう思う」が8名(38%)で9割を占め、「あまりそう思わない」が2名(10%)であった。
  - (3) 市町村等関係機関との連携がすすんだ  
「とてもそう思う」が2名(10%)、「そう思う」が15名(71%)と8割を占め、「あまりそう思わない」と「そう思わない」で4名(19%)であった。
  - (4) 市町村等への精神保健相談に関する支援に自信がついた  
「そう思う」が13名(62%)と多いが、「あまりそう思わない」「そう思わない」が8名(38%)と上記の3項目と比べると低い割合であった。
4. 今後、事例検討会に関して当センターに望む支援(複数回答)
- (1) 「開催回数の増加を希望」は11名、「WEB開催の増加の希望」は8名、「進め方の手引きが欲しい」は13名、「事例検討会の進め方の研修会を開催して欲しい」は12名であった。
  - (2) 開催回数は、半数の方が回数を増やして欲しいという意見であった。また、その他の自由記載には、通常業務の中で事例への検討や助言を求める意見もあった。
  - (3) 「事例検討会の進め方の手引き」と「進め方の研修会の開催」への要望を半数以上の方が挙げており、当センターで令和2年度以降から実施している依存症とひきこもり相談支援に関する手引きやプログラム同様、事例検討会の進め方に関しての手引きが求められていることが分かった。
  - (4) その他として、「別の視点で事例を見たり考えたりすることができて勉強になる」、「自分たちの支援を認めてもらえると、大変な事例でも明日からの業務を頑張れる気持ちになる」、「通常業務での技術支援を希望する」、「WEB開催のときに、センター側の声が聞こえないことがあり、マイクの配置など環境整備をお願いしたい」、「対応を指導するというような検討会にならないよう配慮して欲しい」、「事例提供者の理解が得られれば職員研修の場として欲しい」等の意見があった。

#### IV 考察

1. 今回の意識調査に回答してくれた方は21名、回収率は62%であった。保健所でのコロナ関連業務多忙の中でのこの回収率は高い結果と考え、回答してくれた方々に感謝申し上げる。また、個人が特定されないようプライバシーに配慮した回答方法にしたことも高い回答率に影響していると思われる。  
保健所での精神保健担当の経験年数は平均が6年で経験の短い方と長い方の割合は同程度であり、今回の意識調査は様々な経験値の方の意見が集まったといえる。

2. 保健所以外の機関の参加の有無について、「あった」と回答した方が18名（85%）で、県保健所から市町村や社会福祉協議会等の関係機関への周知を含めた連絡調整をして頂いた結果といえる。一方で、「精神保健福祉センター業務全体に対する意見」の項目で、「市町村等への周知や取りまとめることの負担が大きい」との意見があった。しかし、厚生労働省（令和3年3月18日）「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に係る検討会報告書」の中で「（中略）精神保健福祉センター及び保健所は市町村との協働により精神障害を有する方等のニーズや地域の課題を把握した上で、障害保健福祉圏域等の単位で精神保健医療福祉に関する重層的な連携による支援体制を構築することが重要」とある。この国の方針を実現していくには、地域の精神保健活動の拠点である保健所が管轄地域の市町村や関係機関を支え、精神保健福祉センターが保健所を支えていくといった仕組みを構築することが重要と考える。

3. 事例検討会実施による成果について尋ねた4項目については、「事例への理解が深まった」と「エンパワメントされた」の項目ではほとんどの方が「とてもそう思う」「そう思う」との回答であった。今後も事例検討会を通して、精神保健相談の実践力アップや、困難事例対応の精神的負担感の軽減やリフレッシュの効果が図られていくことが重要と考える。

また、「市町村等関係機関との連携が進んだ」や「市町村等への支援に自信がついた」の項目は、上記2項目に比べて低い割合となった。今回の調査対象者における事例検討会への参加回数は1～5回とかなり幅があること、自分の関与する事例だったか否か、事例提供者としての経験の有無などによっても、市町村支援への自信の度合いに差が生じている可能性が考えられる。今後、事例検討会が各地域に合った形で主体的に取り入れられていくことが望まれる。

4. 精神保健福祉センターに望む支援については、事例検討会の開催回数の増加の希望が、現地開催、WEB開催共に多かった。また、自由記載欄には、通常業務の中で支援に悩んだり行き詰まったときにタイムリーに助言や支援を求めるといった、きめ細かい伴走型支援を望む意見もあった。精神保健分野における地域の重層的支援体制の構築にとって、保健所が複雑困難事例への対応力をつけることは非常に重要と考える。そのため、今後、当センターの多職種チームでの出張事例検討会を継続すること、通常業務の中での技術支援体制を充実させること、複雑困難事例に関しては当センターと保健所が協働で対応をすることが必要と考える。

また、「事例検討会の進め方の手引きが欲しい」、「事例検討会の進め方の研修会を開催して欲しい」の希望も半数以上の方が挙げていた。令和2年度から依存症やひきこもり相談において対応の手引きの作成と研修会を実施してきているが、事例検討会についても同様に進め方の手引きを作成し、今回の意識調査から得られた成果と課題を生かした研修会を開催していくことが、保健所への大きな支援につながると思う。

## V まとめ

今回、当センターにおける事例検討会に参加経験のある保健所保健師への意識調査の結果をまとめた。今後、今回得られた意見や要望を基に、当センターの保健所支援をより一層充実させ、精神保健福祉に関する重層的な連携や支援体制構築の一助としたい。

表1 精神保健担当の経験年数 n=21

	人数	割合
1～3年	7	33
4～6年	6	29
7年以上	8	38

表2 保健所以外の機関の参加 n=21

	人数	割合
あった	18	85
なかった	3	15

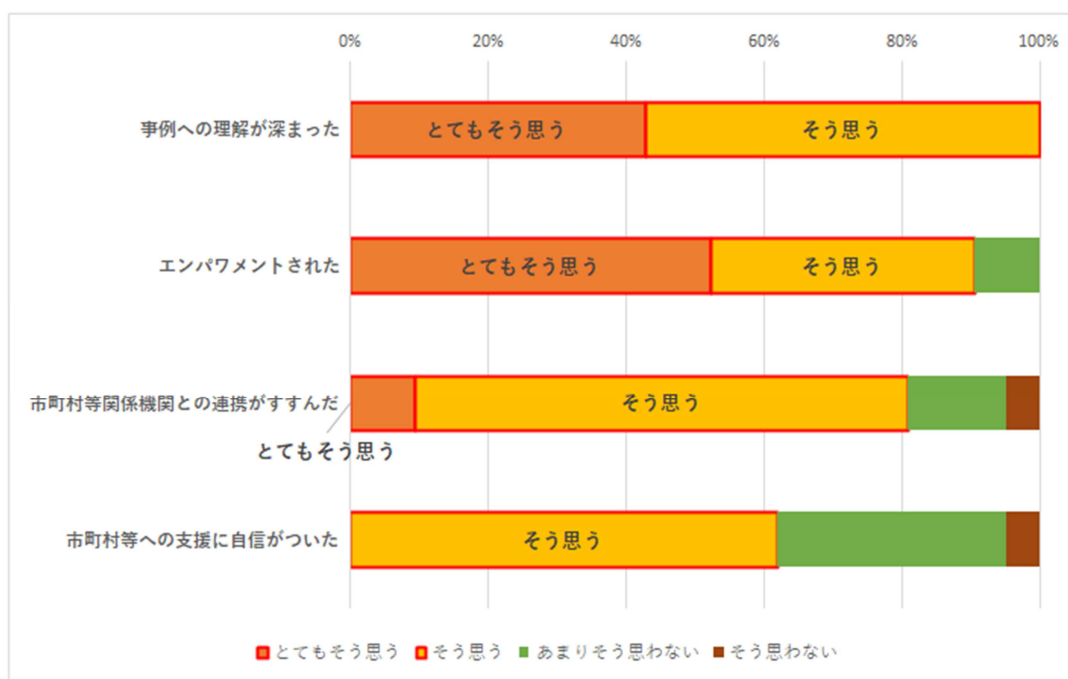


図1 事例検討会に参加することで得られた成果

秋田県子ども・女性・障害者相談センター  
精神保健福祉部

〒010-0864  
秋田市手形住吉町3番6号

電 話 018(831)3946  
FAX 018(831)2306  
E-mail [akitamhc@mail2.pref.akita.jp](mailto:akitamhc@mail2.pref.akita.jp)